

令和5年度 事業計画書

自令和5年4月1日 至令和6年3月31日

公益財団法人 克念社

1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

育英事業は、昭和7年に克念社を創立して以来、現在まで継続している事業である。現在、累計で貸費生総数は1,285名。若葉奨学基金給付生は9名。

(1) 令和5年度新規貸費生と貸費学資金について

令和5年度の貸費生応募者数は、15名。昨年比5名増となった。

令和4年12月7日に貸費生選考委員会を開き、応募者全員を希望額通り内定した。

結果、新規採択者は、15名(月額4万円13名・同2万5千円2名)を予定しており、継続者17名で貸費生は計32名の予定である。

この貸費学資金は、金1,446万円となる。

(内訳)	新規採択者	年30万×2名＝	600,000円
		年48万×13名＝	6,240,000円
	継続者	年30万×3名＝	900,000円
		<u>年48万×14名＝</u>	<u>6,720,000円</u>
	合計	32名	14,460,000円

(2) 令和5年度若葉奨学基金給付生について

風間若葉様からの遺贈を特定資産とし、これを原資に給付型の奨学金を創設。平成29年度から給付を開始した。令和5年度の応募者数は12名(うち貸費生との併願は7名)。応募者は昨年比で3名の増となった。

令和4年12月7日に貸費生選考会に引き続き、給付生選考会を開催し2名を内定した。

継続者は3名で、計5名。この給付金額は、金120万円である。

(3) 令和5年度貸費資金入金見込額について

当年度の貸費資金入金見込額は2,500万円の予定。

2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

(1) 国指定重要文化財「丙申堂」と国登録有形文化財「無量光苑釈迦堂」の公開において、その内容の充実に努め、二つの文化財を有機的に結び付ける。

(2) 「丙申堂」と「無量光苑釈迦堂」の入館者数は、コロナ禍3年目で、徐々に回復し、令和4年度は前年度に比べおよそ5割増である。コロナ前と比較して6割程度まで戻ってきた。今後、観光の動きも活発になり、入館者は更に戻ってくるものと予想される。

3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)

- (1) 豊かな自然を持つ里山に親しみながら、山林を愛する心を育むと共に、森林を保全するために必要な山の仕事に理解を深めることを目的とし、親子で参加する森林体験学習会を春と秋の2回開催する。
- (2) 山林の整備は例年同様、外部に委託し、管理費としては従来の実績を踏まえつつ、山林整備に努める。
- (3) 森林の健康な循環のために、適期を迎えた杉の立木を伐採し、山林収益につなげる。今年度は500万円を予算計上する。

4. 土地、建物の貸与事業(収益事業)

- (1) 基本財産の土地は(株)庄交コーポレーションに、また特定資産の駐車場は一般利用者に賃貸している。また、運用財産の内、本町1丁目の土地・建物は、庄内文化センターに賃貸中であり、そのほかの土地・建物を(有)パンハウス庄内、(株)荘内ハウジング、(社)鶴岡地区医師会外に賃貸している。令和5年度も継続予定であり、安定した賃貸収入により公益目的事業の遂行を図る。
- (2) 日本仏教研究のため、東京大学文学部印度哲学仏教学研究室に対する助成、また、日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究所に対する助成、この二つの助成については、例年通り令和5年度も収益事業の中で継続する。そのため研究費として予算100万円を計上する。

以 上